

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 7 部門第 4 区分

【発行日】平成 18 年 5 月 25 日 (2006.5.25)

【公表番号】特表 2002-510955 (P2002-510955A)

【公表日】平成 14 年 4 月 9 日 (2002.4.9)

【出願番号】特願 2000-542836 (P2000-542836)

【国際特許分類】

H 0 2 G 1/12 (2006.01)

【F I】

H 0 2 G 1/12 3 0 1 K

【手続補正書】

【提出日】平成 18 年 3 月 27 日 (2006.3.27)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 多心ケーブル (2) の絶縁剥がし装置であって、
 固定装置と、
 少なくとも 2 つの対向作動する回転不可能な刃物 (7) と、
刃物 (7) に対して軸方向に距離をあけて設けられた少なくとも 2 つの対向作動するジ
ョー (6) と、
 を備え、
ジョー (6) がケーブル心線 (8) の方向に互いに移動可能であって、従って、ケーブ
ル (2) の方に向かう方向に移動可能であり、
軸方向における前記距離が一定であり、
動作状態において、固定装置とジョー (6) あるいは刃物 (7) との間におけるケーブ
ル (2) の軸方向における相対的な動きが可能であって、これにより、ジョー (6) が、
絶縁剥がし動作となるようにケーブル心線 (8) をケーブルの軸に沿って動かし、ねじれ
た状態または平行でない状態から 1 つの平面に入るようにすることを特徴とする絶縁剥が
し装置。

【請求項 2】 ジョー (6) に、ケーブル心線 (8) の方向にばねが作用していることを特徴とする、請求項 1 に記載の絶縁剥がし装置。

【請求項 3】 ジョー (6) が刃物 (7) に対して、あるいは刃物を受ける刃物ホルダに対して支えられており、および / または刃物 (7) またはその刃物ホルダによって支持されることを特徴とする、請求項 1 または 2 に記載の絶縁剥がし装置。

【請求項 4】 各刃物 (7) が、ジョー (6) をケーブル心線 (8) の方向に案内するガイドレールを有することで、ジョー (6) が、互いに対して、ケーブル (2) の方に向かつて移動可能であり、動作状態において、ケーブル (2) とジョー (6) あるいは刃物 (7) との間における軸方向における相対的な動きを可能とし、これにより、ジョーが、絶縁剥がし動作となるようにケーブル心線 (8) をケーブルの軸に沿って動かし、ねじれた状態または平行でない状態から 1 つの平面に入るようにすることを特徴とする、請求項 1 ~ 3 のいずれかに記載の絶縁剥がし装置のための一組の刃物 (7)。

【請求項 5】 ジョー (6) が刃物 (7) に対して弾力的に支えられていることを特徴とする、請求項 4 に記載の刃物。

【請求項 6】 ケーブル心線 (8) の方に向いたジョー面が、静止状態のとき、刃物 (7) の切れ刃 (10) よりケーブル心線 (8) に近いことを特徴とする、請求項 1 ~ 3

のいずれかに記載の絶縁剥がし装置又は請求項 4 または 5 に記載の刃物。

【請求項 7】 刃物(7)は、心線絶縁材(9)の厚さに対応して成形された成形刃物として形成されており、該成形刃物が相互に隣接し、その数が少なくとも絶縁が剥がされるべきケーブル心線(8)の数に対応している半円形の部分刃を有することを特徴とする、請求項 1 ~ 3 のいずれかに記載の絶縁剥がし装置のための刃物又は請求項 4 または 5 に記載の刃物。

【請求項 8】 少なくとも 1 層ずつの心線絶縁(9)と 1 層のケーブル外被(5)を有する少なくとも 2 本のケーブル心線(8)をもつ多心ケーブル(2)の絶縁剥がし方法において、

ケーブル(2)が固定装置によって支持され、

ケーブル外被(5)が除去され、

心線絶縁(9)に回転しない刃物(7)によって切断され、剥がされる、

工程を有し、更に、

刃物(7)を切り込ませる前に、ケーブル心線(8)を機械的に、ケーブルと絶縁剥がし可能な部品(6)との間の絶縁剥がし動作によって相互に平行に整列させ、刃物(7)の切れ刃(10)に平行な面内に入るようにし、これにより、絶縁剥がし可能な部品(6)と刃物(7)との間の軸方向における距離が一定であること、あるいは一定に保たれることを特徴とする方法。

【請求項 9】 擦り運動が刃物(7)および/またはジョー(6)の、固定装置を基準とした、ケーブル心線(8)に沿った相対運動によって、同時に刃物(7)および/またはジョー(6)がケーブル心線(8)に対してゆっくりと、段階的に閉じることにより、好ましくは尚早な切り込みを回避して、生成されることを特徴とする、請求項 8 に記載の方法。

【請求項 10】 擦り運動を作用させるために独自の、相互に対向して、またケーブル心線(8)の方向に作動するジョー(6)が設けられ、該ジョーが刃物(7)から独立して、または該刃物と共同で、固定装置に対してケーブル心線(8)に沿って相対移動を行い、同時に相互に対向して相対移動を行うことを特徴とする、請求項 8 または 9 に記載の方法。

【請求項 11】 ジョー(6)には、閉鎖方向にはばねの荷重がかかっていることを特徴とする、請求項 10 に記載の方法。

【請求項 12】 1 つずつのジョー(6)が、それぞれ 1 つずつの刃物(7)によって支持され、該刃物に対して弾力的に支えられており、ケーブル心線(8)の方を向いたジョー面が、静止状態のとき、それぞれ関係付けられている刃物(7)の切れ刃(10)よりケーブル心線(8)に近いことを特徴とする、請求項 11 に記載の方法。

【請求項 13】 ジョー(6)が固有のガイド内でそれぞれ関係付けられている刃物ないし関係付けられている刃物ホルダを支持しているのと同じ工具ホルダに弾力的に支持されており、このばね力は、擦り過程の際に心線絶縁が実質的に変形しないように設定されていることを特徴とする、請求項 8 ~ 11 のいずれかに記載の方法。